

兵庫県立 A 高等学校 避難所運営ゲーム 「チャレンジ！」 結果概要

実施日：令和 3 年 3 月 17 日(水)

時間：10：40-12:30

対象：1 年生 192 名(5 クラス)

実施体制：各クラス 6 班(全部で 30 班) 1 班 6-7 名

*新型コロナ禍ということも考慮し、講義は会議室と各教室をオンライン会議システム (ZOOM) でつなぎ、最低限の補助学生が対面でサポートする形で実施。機械の接続トラブルのため 3 組のみはオフラインの対面形式でゲームを実施、4 組は第 2 ステージのみオフラインで実施。

チャレンジ！の結果

□ 避難所運営の役割

リーダーを含めた班員 (6-7 名) 分の役割を考えるという課題に対して、30 班中 26 班で回答があった。最小回答数は 4、最大回答数は 10 で平均回答数は 6.3 であった。同一の役割を複数人で担当している班もあり、案内係 (32)、食事(23)、健康(21)といった役割が多くの班で提案された。その他としては、「お悩み相談」、「コールセンター」、「大声」、「避難所設計」などの意見が出た。

町の指定避難所に指定されているが、小・中学校に比べると地域住民にとっては馴染みの薄い施設であることから、案内係が必要であると判断されたことが伺える。また、ゲームマスターからの出題がオンラインで行われたため、指示内容を理解できずに十分な回答ができなかった班や必要以上の回答をする班も見受けられた。

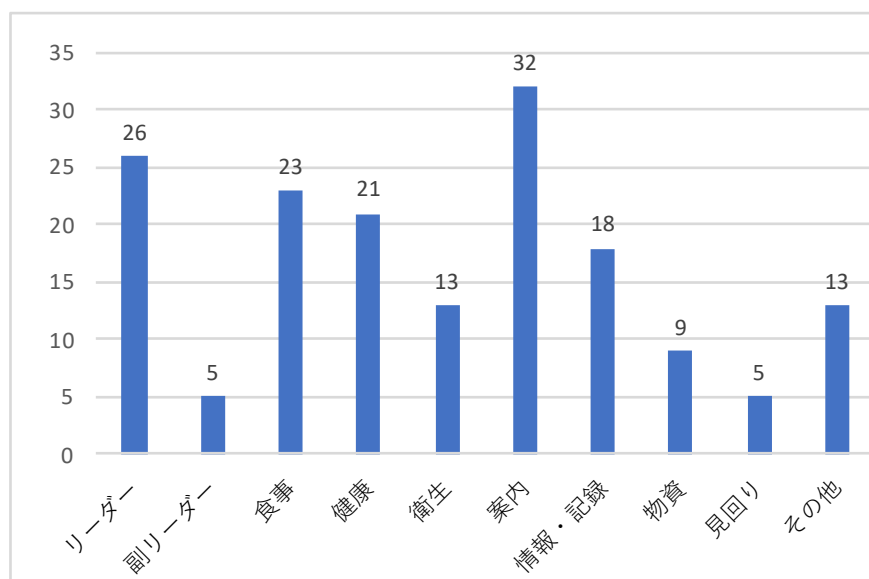


図 1.避難所の役割 (N=26)

□ 校舎の利用方法

避難所として校舎の利用方法を考えるという課題に対しては、30 班中 29 班で回答があった。最小回答数は 2、最大回答数は 12 で平均回答数は 6.5 であった。回答は部屋名と用途を回答した班と配布した校舎見取り図に用途を記入した班があった。避難場所以外のスペースとして、救護・怪我人(22)、ペット(18)、食事(17)が半数以上の班で挙げられた。また、子どものためのスペースの表記を「トイザラス」、赤ちゃん連れのスペースを「授乳室兼赤ちゃんほんぼ」とするなどユニークな表記も見られた。その他としては、「迷子センター」、「休養室」、「個人にもつおき」があげられた。

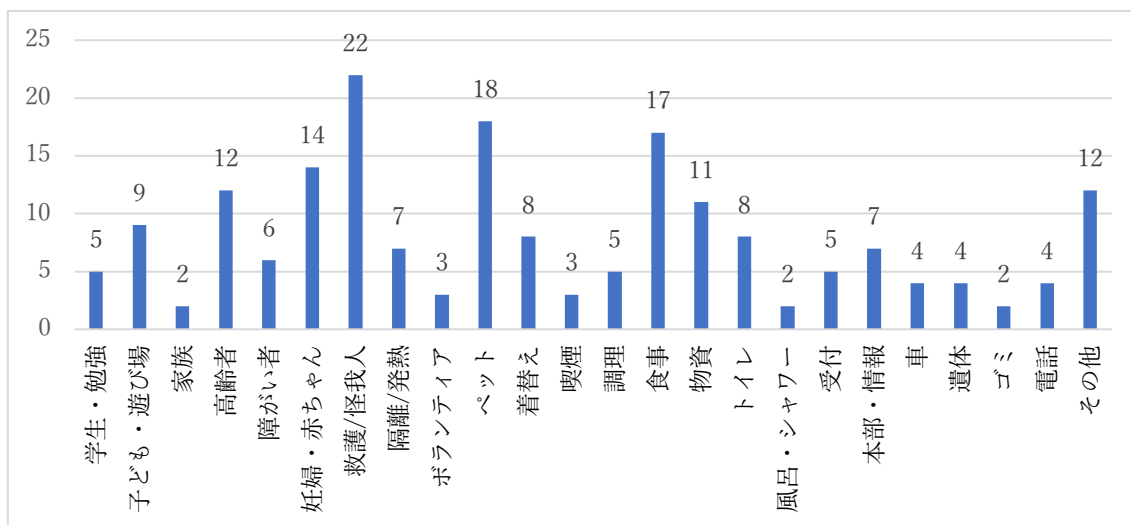


図 2.校舎の利用方法 (N=29)

□ 避難者名簿の項目

避難者名簿の項目を考えるという課題に対しては、すべての班で回答があった。最小回答数は 5、最大回答数は 23 で平均回答数は 9.1 であった。多くの班で挙げられた項目としては、名前(29)、年齢(29)、住所(28)、家族構成(25)、性別(23)、持病・薬(23)であり、避難者名簿の項目として取り入れられることの多い電話番号を回答した班は 18 班であった。その他としては、「家族で連絡がとれない人」、「寝る場所」、「学校名」に加え、新型コロナ禍ということから「マスクの有無」、「2 週間以内にどこに行ったか」といった項目があげられた。

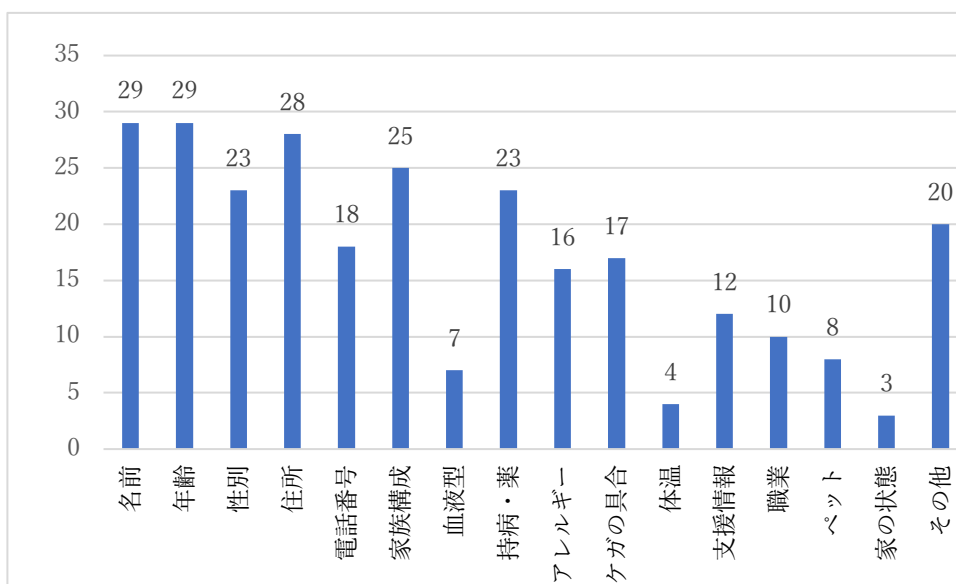


図 3.避難者名簿の項目 (N=30)

□ 避難所のルール

避難所のルールを考えるという課題に対しては、すべての班で回答があった。最小回答数は 4、最大回答数は 34 で平均回答数は 8.8 であった。多くの班で挙げられた項目としては、助け合い(50)に

関するもので、「優先順位を考える!」、「ゆずり合う」、「夜泣きはしかたない」など様々な表現のルールが見られた。他に禁止事項に関するルール（騒がない (27)、喧嘩をしない(14)など)、協同生活上のルール（個人空間・物品(24)、スケジュール(21)、食料・物資配分(20)など）があげられた。その他としては、「余震がきたら速やかにグラウンドに避難する」、「弱音は吐かない」、「もう逆ナンしてこないで!!」など高校生らしい発想による回答も見られた。

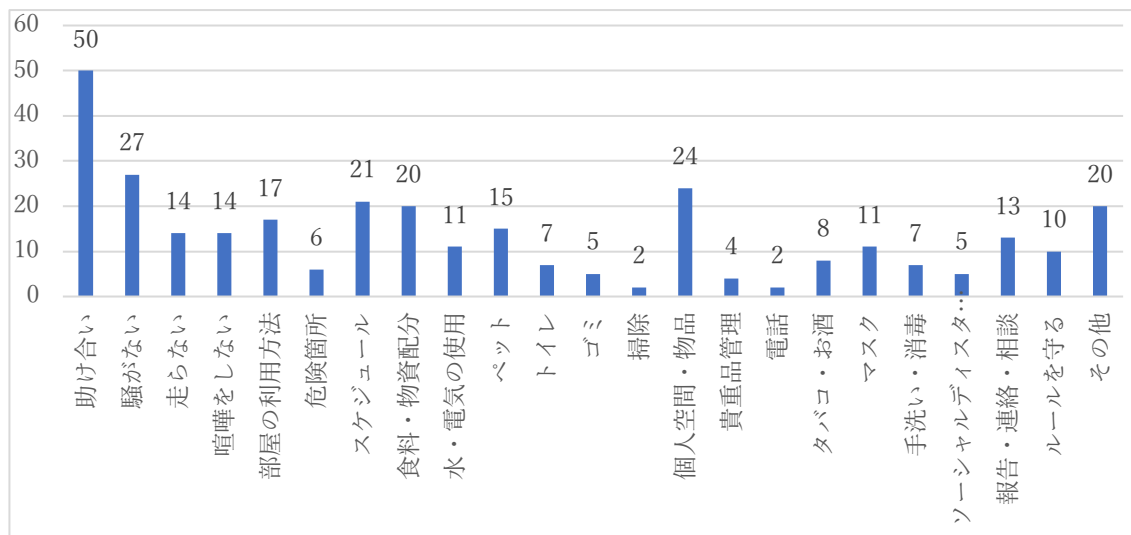


図 4.避難所のルール (N=30)